

LIKE A CAR CRASH

written by HADEYA

1

表紙を捲った。

殺、と赤い漢字で一文字、綴られている。ページ全面にイラストが描かれていた。花柄の壁……どうもホテルの一室のようだ。切断された女性の死体の傍、血塗れのチェーンソーが転がっている。壁も絨毯も真っ赤。

一体、この部屋で何が起きたのだろう……想像しながら、2ページ目を捲った。

2

その本はインターネットの電子書籍サイトで購入した。作者は〈S〉と言う人物で、どこの誰かは分からない。私とその本に興味を持ったのは作品名が興味を引いたからだ。作品名は〈LIKE A CAR CRASH〉で「車の衝突のように」と言う意味だ。私自身、衝撃を求めているから心理的に惹かれたのだと思う。ある種のパレイドリアが働いた訳だ。

この本は中毒性が高い。読むに連れ、ドンドン夢中になって行く。ドンドン恐怖が快感に変わって行く。ドンドン、**ドン!** ドアを叩く音がした。何度も何度も。暴漢者だろう。当然、警察へ通報した。

「警察を呼んだから！ すぐにパトカーが来る！」

……そこまでは覚えている。そこから先がウロ覚えだ。私は走って逃げた。窓から。走りながら記憶がフラッシュバックする。

そこは第七街宮小学校———母校。私は教室にいる。子供用の座席が並ぶ教室に。ランドセルを背負った男子生徒が教室に入って来た。忘れもしない初恋の人。彼は私に気付いていないようだ。彼は女子生徒のテーブルの引き出しを開け、中を漁っている。一体、何をしているのだろう。

彼はテーブルから教科書を出し、ランドセルに入れた。そして足早に去った。尾行する。彼は体育館に入り、少しして出て来た。倉庫に入るとマットの下、盗まれた教科書が置かれていた。隠されたに違いない。私の初恋の人は盗人だったのだ。ショックは計り知れなかった。

ドン! 再び、フラッシュバック———電車内に私はいる。朝刊でクラスメイトの死を知った。飛び降り自殺したのだそうだ。衝撃は大きかった。

ドン! 音で我に返った。**ドン!** 音と共にスマートフォンを手に裸足で芝生の上を駆けて行く。咄嗟にドアを開けた。そこがどこか分からず、隠れる為に飛び込んだのだ。

室内は無人だった。私はこの部屋を見た事がある。ここは……小説の巻頭イラストの部屋だ。

まさか、この部屋で……。

ドン! 音と共にドアが破られる。破られたドアの隙間から無精髭の暴漢者の顔が覗く。

「私はどこの誰でしょう？」

私は……隣室へ飛び込んだ。背後でチェーンソーを吹かしながら無精髭の男が追ってくる。どこまでも、どこまでも……。

隣室には死体が転がっていた。年端も行かぬ少年の死体。半狂乱で廊下へ踊り出る。そこにも老人の死体が転がっていた。周囲は死体の山。壁は血塗れ。突如、フローリングの床に大きな穴が開き――

動けない……痛くて。エンジン音が聴こえる。チェーンソーの音。徐々に迫り来る恐怖のサウンド。目の前でスニーカーが立ち止まった。同時に激痛が走った。成す術もなく、私は切り刻まれた。

3

……読者の皆様は疑問に思っている事だろう。女性の身に何が起きたのか。一体、この小説は何なのか。今際の夢？ それとも……失敗作???

心配無用。この物語は「あっ!」と驚く局面を迎え、エクストリームなエンディングを迎えるのだ。

さあ、続きを読みたまえ!

*

そもそも発端は主人公である女性が本を読んだ事に始まる。

女性は本にノメリ込む余り、本の内容と現実の区別が付かなくなった。そして過去と現在が目まぐるしく、フラッシュバックする。

……勘の鋭い読者はお気付きの筈だ。この小説が何か。女性が何者で、無精髭の男が誰か。

女性の名は楠晶子。この小説は……今、あなたが読んでいる小説は最新技術で復元された他人の記憶。そして今、〈私〉は某研究所で記憶移植を受けている。

この小説そのものが記憶移植と言う名の〈生体実験〉なのだ。

「あなたは同意しますか？ 他者の記憶が自分の海馬にインプリントされる事を」

白衣の医師が尋ねる。〈私〉は契約書にサインした。表紙を捲る。**殺**、と赤字の一文字が綴られている。

ドン! 音がして私は海にいた。

ドン! 音がして私はERでAED措置を受けていた。

ドン! 音がして、チェーンソーで斬り付けられる。血飛沫で壁が真っ赤に染まる。

.....脳が混乱する。担当医は言っていた。実験が失敗に終わった場合、意識が混乱する事がある、と。混乱——それがアクセス・ポイント。アクセス・ポイントから私は侵入された。自らの思考に。私は〈あなた〉だ。そして、あなたは〈私〉に他ならない。

脳が切り刻まれる。苦痛と恐怖の連続でズタズタにされる気分。
これは状況を理解できない〈小説〉に違いない。

チェーンソーが翻る。激痛を覚える。私は諭す——実験が失敗に終わった事を。
彼は.....無精髭の殺人鬼は私を見下ろしながらニヤニヤしている。お笑い番組のように。
殺人鬼は言う——気分はどうよ、読者さん？

*

初恋の人が邪険な口調で告げる——ざまあ見ろ。飛び降り自殺のクラスメートが悲鳴を上げながらアスファルトに激突する。視界に広がるのは漆黒の闇。永遠の苦悩。

「危ない！」

車が突っ込む。目の前のトラックへ向け。**ドン!** 強い打撃音がして——

衝撃だけが残る。突然、**ガツン**とハンマーで殴られるように。世界の様相が一変するように。
突然、カー・クラッシュのように。(了)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872